

校長室からこんにちは！

No. 2 2

10月18日

発行者 中田 禎二

とことん

30代の大半を勤務した学校では毎年秋に地域・保護者の協力によるお祭りを開催していました。それはもう地域のみなさんの楽しみの一つで、小さな子どもからお年寄りまで多くの人が来校され、出し物や展示、そして、バザーを楽しまれていました。

ある年私がその担当になったとき、研究会もその前後で行うことになりました。そこで、時期も近かったことから、お祭りを縮小して実施しました。もちろんその日は親子で楽しいひと時を過ごし、私は満足感に浸りながら懇親会に出席しました。ところが、懇親会が盛り上がりだしたとき、ある保護者から「今年の行事は何じゃったんや」「やるんなら とことん やりんさいや」「わしら なんぼでも（いくらでも）手伝うんじゃけえのう」（広島弁）との言葉を突きつけられました。

私は愕然とし酔いも覚め、ただただ話を聞くのみでした。しかし、保護者の言われることは尤もなことで、聞きながら、子どもの満足感はどうだったのか、地域の人はどうな思いを持たれたのか、私の自己満足に過ぎなかったのではないかと数時間前を振り返りながら反省したものです。

ところで、本校では9月20日に夏休み研究発表会を行いました。発表資料の中身、発表態度、発表の仕方、聞く姿勢と、どれをとっても子どもたちは課題意識をもって一生懸命に取り組んでいました。また、担任も学期始めから時間をかけて細かな指導を行ってきました。そして、お家の協力がありその子なりの個性の表出した発表ができました。

私は予想以上の出来栄えに子どもたちがとことんやったことを感じました。うまくいかなかったと思っている子もいますが、それはとことんやったから出た言葉であり重みが違います。とことんやった子どもの満足感・充実感・達成感に次への力になりますし、これが子どもの持つ能力でもあります。

来る11月23日の学習発表会では、さらにとことん取り組んだ成果が披露できればと思い、その土台となる日々の授業を大切にしているところです。

例が適切かどうかとは思いますが、一芸に秀でた人はとことんやり続けた人です。かつて戦後の日本を代表する通訳が外国に一度も行かずに英語をマスターした秘訣を聞かれて、「教科書を読んで読んで読みまくり、書いて書いて書きまくったからです。」と言った言葉を思い出します。

「とことん」学ばせることは教育の不易として指導者として大切にしていきたいものです。

校長写真館



2年生の生活科
だよりです。

一つは、みんな
で野菜を収穫し
て食べました。

自分たちで選ん

で育てたから味は最高でした。もう一つは悲しい出来事。金魚の金ちゃんが死にました…。具体的な活動や体験を通して子どもたちは様々な気づきを持ち、生きる力の根っ子を伸ばしています。

ちょっとお耳を…

ある授業でのこと。女の子が描きかけの絵を持ってきた。その絵は主題から少し外れていた。そこで、そのことを指導した。

すると、返ってきた言葉が、「はい。ありがとうございます。」

「はい。分かりました」でも十分なのに、私は「感謝」の言葉に驚いた。そして、この子の純な心を垣間見た思いで、もうこれ以上絵のあれこれは言うまいと決めた。そうしたら、他の子の絵も生き生きとしていることに気づいた。